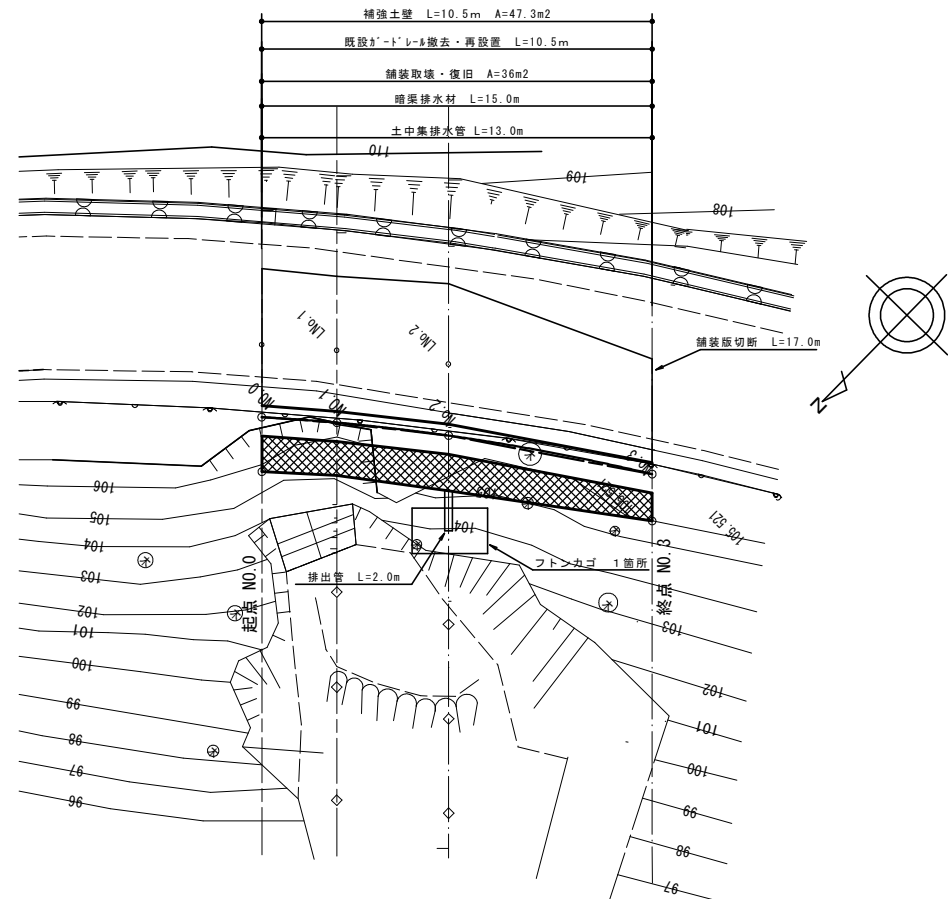
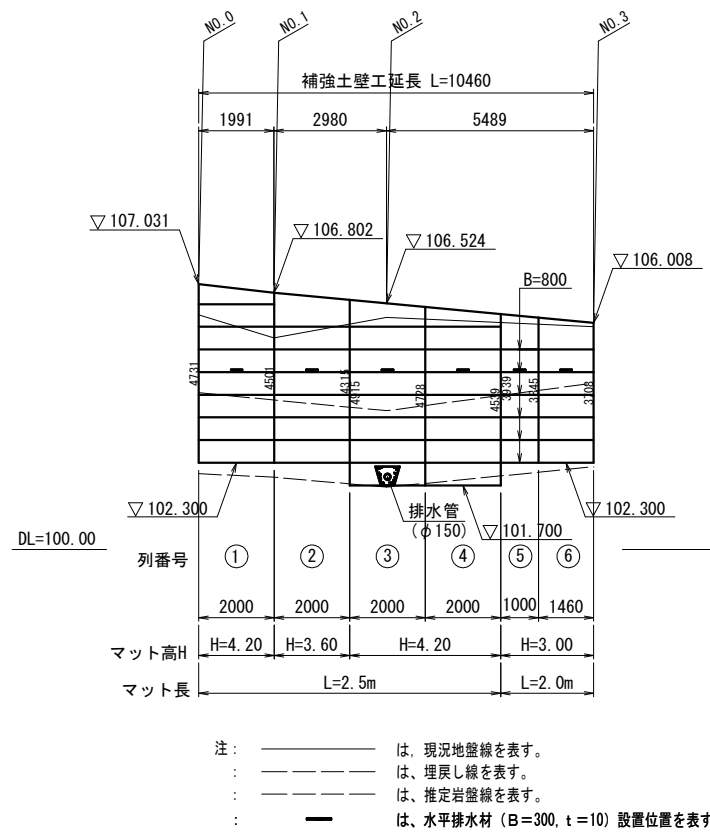


平面図 S=1/100

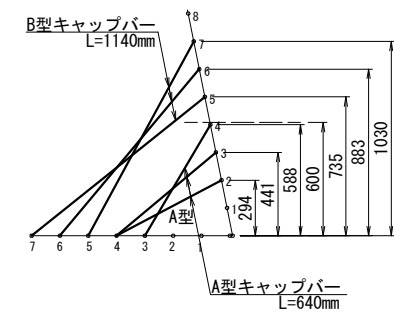


補強土壁工計画図

展開図 S=1/100

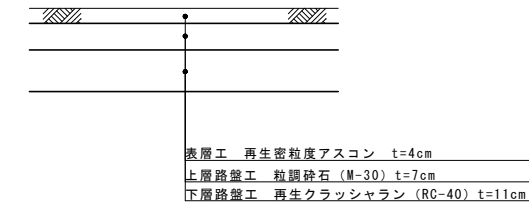


キャップバー取付図 S=1/20



- <注意事項>
- ・キャップバーは調整トップマット1ユニットに対して、A型3本、B型3本を使用し、調整高さが600mmより低い箇所にはA型、高い箇所にはB型を設置する
 - ・同様にハーフユニットに対しては、A型2本、B型2本を使用する
 - ・フックを掛ける交点の組み合わせは上図を参考にし、必ず縦筋と横筋の交点に掛ける

舗装構成図 縮尺 1:10



設計条件

盛土材の単位体積重量	$\gamma = 20 \text{ kN/m}^3$
盛土材の内部摩擦角	$\phi = 35^\circ$
盛土材の粘着力	$c = 0 \text{ kN/m}^2$
活荷重	$q_L = 7 \text{ kN/m}^2$
雪荷重	$q_s = 1.0 \text{ kN/m}^2$
設計水平震度	内的 外的 全体安定 考慮しない 考慮しない 考慮しない
擬似擁壁の外的安定	単位 常時
地盤反力	$k \text{ N/m}^3$ $Q1=101.178$
支持力の安全率	$F_s \geq 3.0$
必要な極限支持力	$k \text{ N/m}^2$ $q_u=303.534$

特記事項

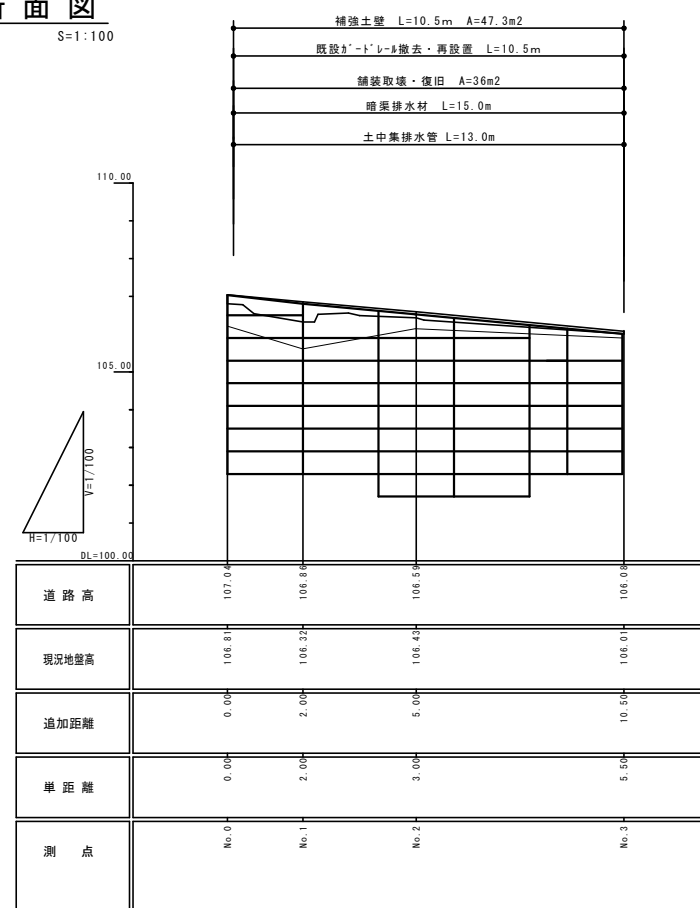
- ・盛土材は以下に示す土質材料もしくは岩石質材料を使用すること。
(土質材料) : 細粒分の含有量が 25 % 以下のもの。
(岩石質材料) : 最大粒径が 300mm 以下の硬岩すり、もしくはスレーキング率 30 % 以下の軟岩すりで、細粒分の含有量が 25 % 以下のもの。
- ・掘削時に切土面からの湧水が著しく多い場合は、別途排水対策を追加すること。
- ・基礎地盤の極限支持力が、上記の必要な極限支持力以上であることを確認すること。
- ・補強材と壁面材は一体型で接続部において100%強度を発揮するもの、または、これと同等以上と監督員が認めたものを使用すること。強度低下が見られるものは使用できない。

施工管理基準値

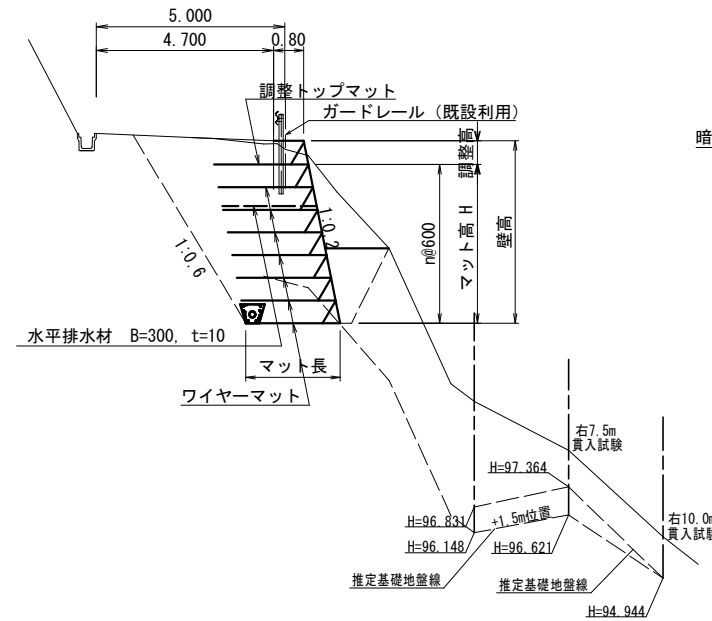
項目 (頻度)	
盛土材の締固め度 (盛土材 500m ² に1回)	・JIS A 1210のA、B法による最大乾燥密度の95%以上又は、C、D、E法による90%以上とする。 ・細粒分含有量が多い場合 (20%以上) で上記締固め度が得られない場合は、空気間隙率を13%以下とする。 ・岩石質盛土材の場合は、工法規定方式で管理するものとする。
完成後の壁面勾配	・±0.03±Hおよび30cm以内。 ここで±Hは壁高。

縦断面図

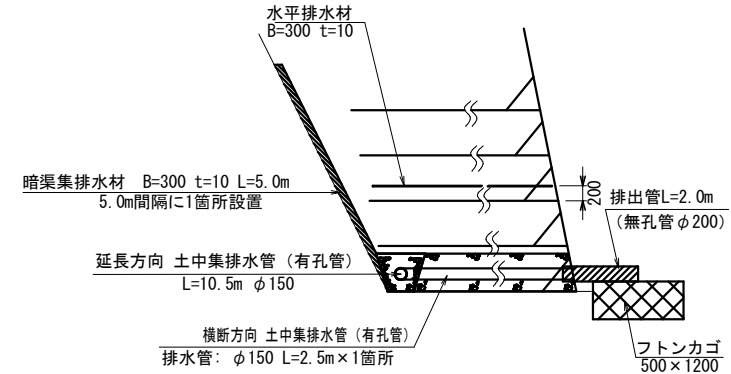
S=1/100



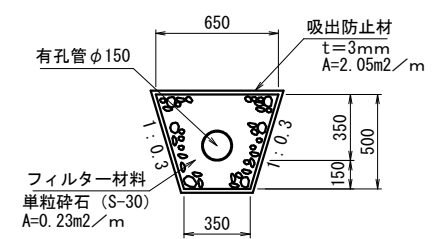
標準断面図 S=1/100



排水工 標準図 S=1/50



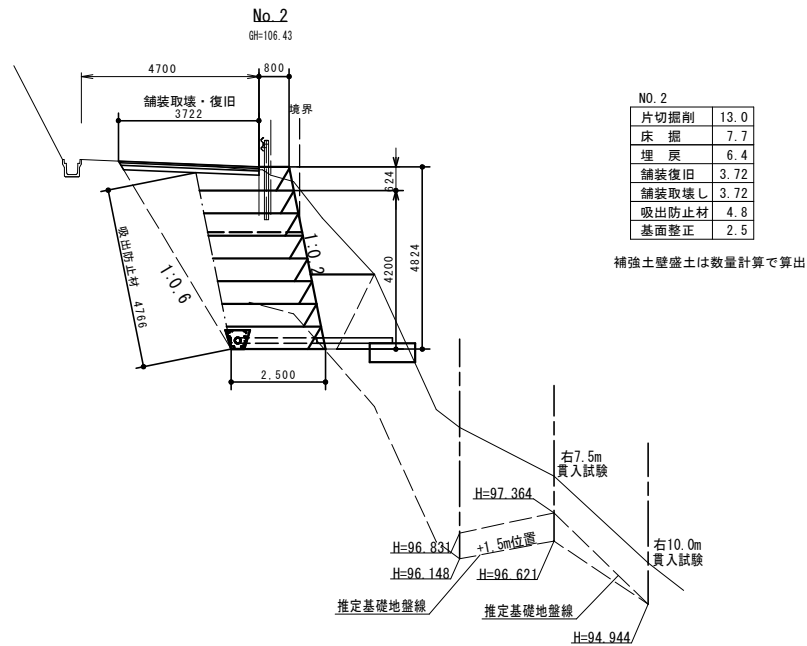
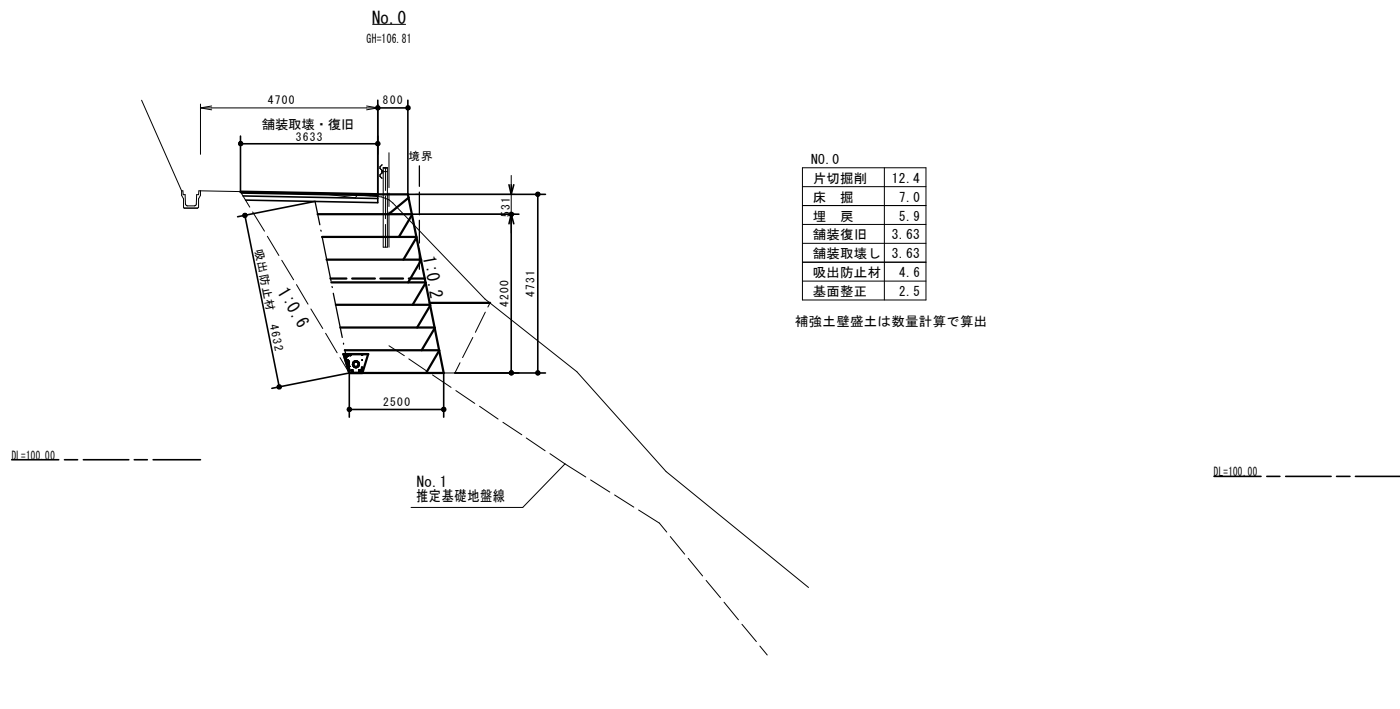
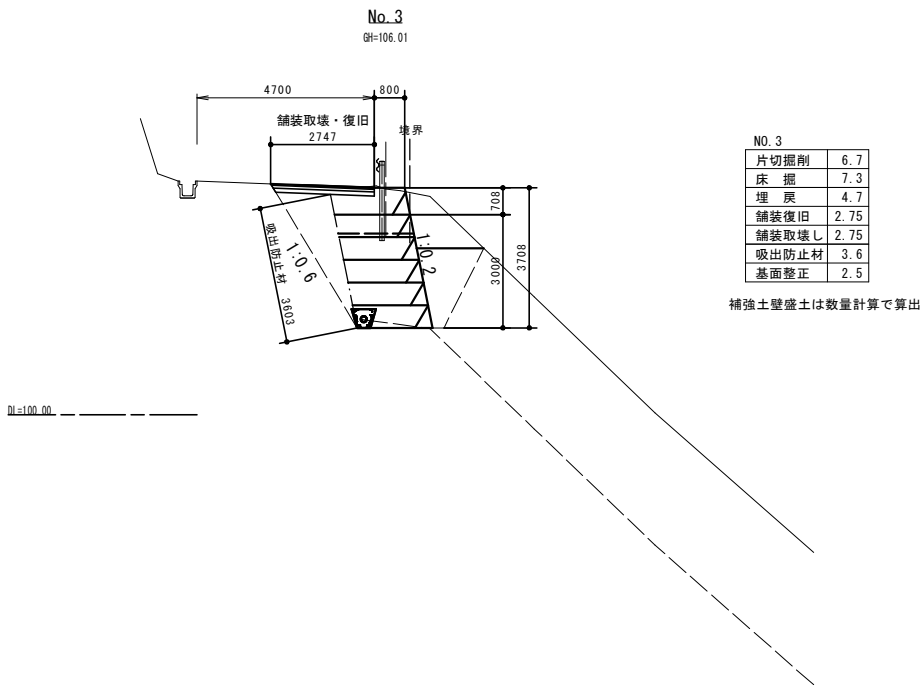
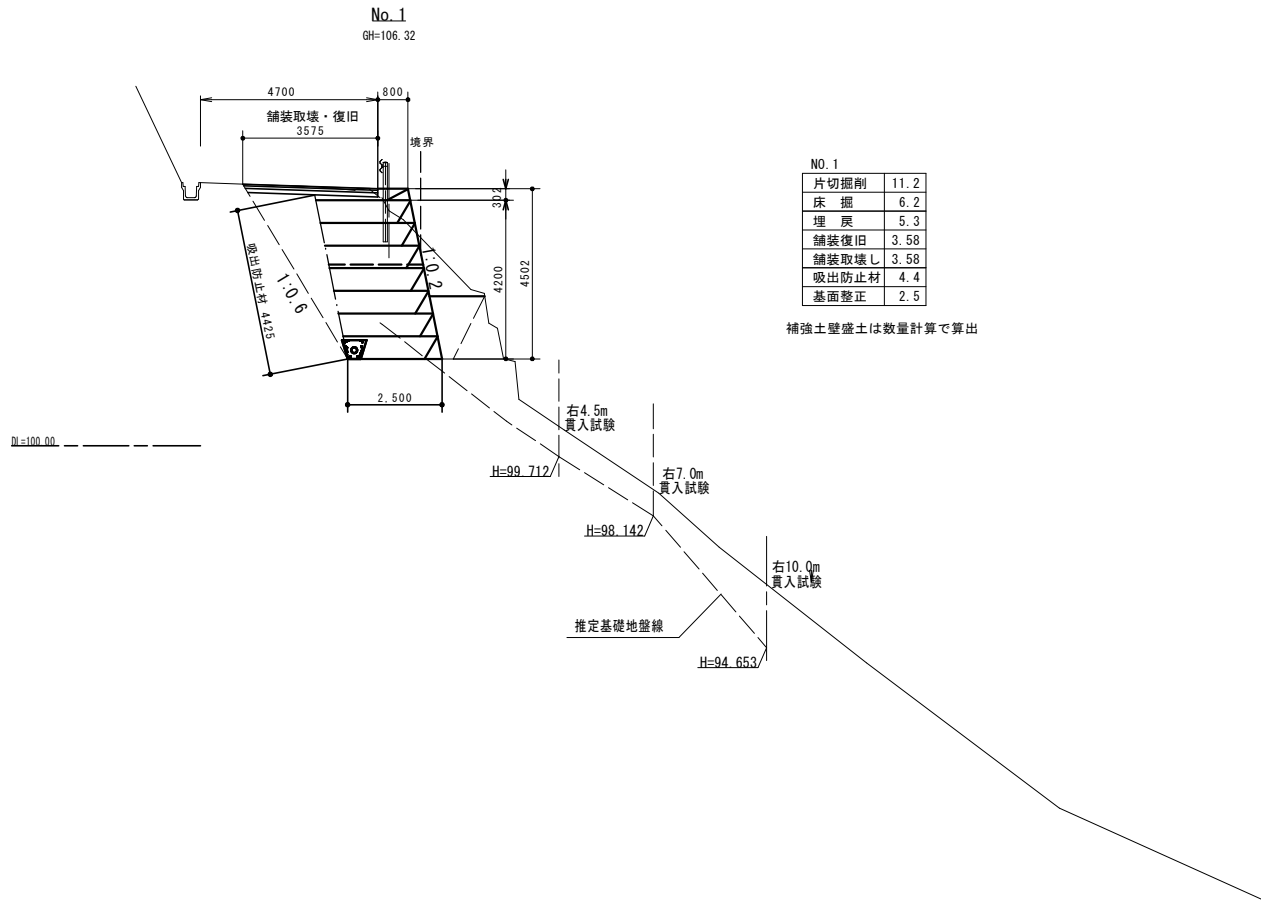
土中集排水管詳細図 S=1/20



工事名	206-3倉坂地区災害復旧工事
工事場所	東伯郡琴浦町大字倉坂
図名	平面図・縦断面図・展開図・構造図
縮尺	図示 図面番号 1/2
令和4年度施工	
琴浦町	

横断面図

S=1:100



工事名	206-3倉坂地区災害復旧工事		
工事場所	東伯郡琴浦町大字倉坂		
図名	横断面図		
縮尺	図示	図面番号	2/2
令和4年度施工			
琴浦町			